

舗装施工管理技術者技術講習会



日本道路建設業協会(道建協)は7月29日、平成24年度舗装施工管理技術者技術講習会を名古屋市熱田区の名古屋国際会議場で開いた。

会員企業などから約270人が参加し、舗装工事の安全対策や最新の技術動向などを学んだ。

開式の挨拶では、岩田裕美道建協中部支部長が、中部地方における舗装事業の現状について「厳しい状況が続いているが、長寿命化やトータルコストの低減を踏まえた発注、工法の検討が進んでいる」と述べ、対応の重要性を強調した。また、4月に開通した新東名高速道路にふれ「日

本の道路技術の優秀さをぜひ体感してほしい」と語った。

講習では、柳武市中部地方整備局道路部道路情報管理官が「舗装事業をめぐる社会・経済情勢と各種制度」、道建協の樋口貞夫氏が「舗装工事の安全対策」と「建設副産物対策」、二木隆氏が「最近の舗装技術の動向」について解説した。

道建協は、今回の講習会からQRコードで入講管理を行い、運営管理の迅速化を図った。



岩田支部長挨拶

アスファルト舗装技術講習会を開催

日本道路建設業協会・愛知県アスファルト合材協会

アスファルト舗装技術に関する講習会が9月4日、名古屋市中区の名古屋ガーデンパレスで開催された。この講習会は日本道路建設業協会中部支部と愛知県アスファルト合材協会の共催で、会員企業各社から約140人が出席して最新の舗装技術を学んだ。

冒頭あいさつに立った愛知県アスファルト合材協会の内藤秀樹技術管理委員会担当理事は、災害時に建設業者が果たすべき役割を説明した上で「プロが正しいことをやらないといけない。本日の講習会で皆さんの能力をさら

に磨いてほしい」と呼びかけた。

講習会では、愛知県環境部資源循環推進課廃棄物監視指導室の飯島啓二指導グループ室長補佐が「産業廃棄物の適正処理」について説明した。

次いで道建協中部支部の井口勝秀企画調査課長が「アスファルト混合物事前審査の現状と課題」について報告し、過去3年間に行われた立会審査・立入調査の結果を踏まえ、▽印字管理▽温度管理▽管理図▽再生骨材の管理—などについて留意事項を説明した。

続いて(株)NIPPO中部支店の和田文明技術グループ課長が「最新の舗装技術」について、大成ロテック(株)技術研究所の紺野路登課長代理が「舗装の延命及び路面性能の回復を目的とした予防的維持工法」について、日本道路(株)生産技術本部技術グループの荒尾慶文サブリーダーが「予防的維持とその適用工法」について解説した。

